

偽メール

小道 周帆

(一)

何時ものように朝刊を読み終え、九時過ぎにパソコンのメールを開けた。最初のメールは友人の代田から今朝の日経朝刊『私の履歴書』についての感想だった。そうか、そんなことが書いてあったのか。改めて読んで自分なりの感想を返信しよう。

次のメールはアマゾンから「ご注文の確認」というメールだった。アマゾン？エエ以前に中古本を買った記憶はあるが、最近注文した覚えはない。宛名は大木敏夫ではなく、私のアドレスに様を付けているだけだ。アマゾンとしては失礼な宛名表示だなと思った。

内容を読んでみる。

「誰かがあなたのAmazonのアカウントを使用して別のモバイルからこの注文を購入しようとしてました。Amazonのセキュリティポリシーに従い、Amazonのアカウントを凍結しました。」

何のことか今一つ理解できなかったが、自分のアカウントが使われたのが気になった。続いて注意喚起のためか赤字体でこう書かれていた。

「◆アカウントが盗まれる危険性があります。この注文を一度も購入したことがない場合は、二十四時間以内に以下のリンクをクリックして、この注文をキャンセルし、Amazonアカウントを復元してください。」とある。

誰かが私に成り代わって注文をしたようだ。そして太字で記されたお届け先には「山野俊子 横浜市青葉区美しが丘6-45-7」とあり、「注文金額37,000円」と記載され、支払い方法 クレジットカードとある。次のリンクには『注文をキャンセルする』という欄が設けられている。

さらにAmazonはお客様に沿ったサービスをしている等のことが細かく書かれている。

何を購入したのか注文の品が書かれていないのが不自然だ。まずはアマゾンに確認してみる必要がある。パソコン検索により、アマゾン

のカスタマーセンターを調べた。電話を掛けると、機械音の声で用件の種類の番号を押すように指示され、次いで電話番号を求められた。折り返しアマゾンカスタマーセンターから連絡するという。用心深いのだな思いつつ電話番号を入力した。二分後に電話があり、照会内容を話した。

「注文をしていないのに貴社からのメールでご注文の確認メールが来た。これはどういうことなの？」

「ご迷惑をお掛けしております。そのメールはアマゾンの名乗った偽装メールで、詐欺目的のものです。一切リンク等には反応せず、無視し、メールそのものを削除してください」

「解りました。しかし、ロゴもアマゾンのものですし、慌てて『注文をキャンセルする』と入力しようとなりました。気を付けねば…」

「そうなんです。でもお客様はすぐに照会頂き良かったです」

「もしアクセスするとどんなことになるのですか？」

「恐らく、名前、住所、ログインIDやパスワード、クレジットカード番号などを書かせるようです」

「なるほど個人情報を手に入れ、悪事を働くわけですね」

「偽メールの情報を頂きありがとうございます」

もつと聞きたいことがあったが、業務多忙とみえ、電話は終わった。

偽メールと判ってひと安心だが、大木は毎日が退屈な定年退職者だ。

この偽メールに興味を湧いた。暇にまかせて、パソコンで「アマゾン偽メール」を検索してみた。

あるある、まずはアマゾンの公式ページ。開いてみると「Amazonではフィッシング、なりすまし行為に対して真剣に取り組んでいます。」

Amazon からはではないと思われるメールを受信した場合は、速やかに、報告してください。」とあった。

その他いろいろな内容のものがあり、特に大木が気に入ったのは【Amazonを装う迷惑メール】実例と対処法を解説」で、丁寧に解説されているのに感心した。アマゾンが掲載しているのかと思ったが、そうではなくセキュリティソフトを販売している会社だった。

そのすぐ下には「amazon 偽メール例の画像をすべて見る」があり、大木宛に来た「ご注文の確認」と同じ書式のものがあった。お届け先

あるじゃないか。架空名ではなかった。しからば山野俊子さんは誰だろう。同居するご主人の高齢の母親だろうか。いきなり訪ねても警戒されるに違いない。どうしたものかと思案しながらも、山野家の見える歩道のベンチに腰かけた。

暫くすると、山野家の門扉が開き、若い女性が出てきた。ようし！声を掛けてみよう。

「すみません、山野さんのお家の方ですか？」

「そうですが、何か？」

「私は大木と申します」と、趣味の会で使っている名刺を渡した。
「・・・」

「趣味の会は関係ないのですが、ご家族に山野俊子さんっていらつしやいますか？」

「私ですが…」

「実は私の所にこんなメールが届いたのです」と、アマゾンのメールを見せた。それに目を通しながら、

「変ですね」

「アマゾンに確認したところ偽メールと判明しました。」

住所や名前も架空のものだと思っていきましたが、念のため訪問してみました次第です」

「すぐに状況が掴めませんので、もう少し詳しく話していただけますか。立話も何ですから、近くに『スターボックス』がありますので、そこでもいいですか」

思いもよらない展開で彼女と話をすることになった。若い女性と喫茶店に入るのは何年振りだろう。しかも上品な美しさの漂う女性だけに少し恥ずかしい気がした。

喫茶店の席で彼女はアマゾンのメールを隅から隅まで読んでいた。

「どうして私の住所名前が使われているのですか」

「私も同じように、どうして私のアドレスが使われたのが解りません。要は個人情報はどこから漏れていることは確かですね」

「大木さんはどうされたのですか」

「取り敢えずアマゾンの登録を全て削除しました」

「私もアマゾンを利用していますが、いったん登録を削除したほうが

良さそうですね」

「その方がいいかもしれませんね。私のアドレスは先ほどお渡しした名刺にも記載し、広く知らせていますが、この後はアドレスを変更しようと思っています」

「私の氏名・住所は変更できませんので、困りますわ。用心するしかないですかね」

「詐欺メールの囮のような形で山野さんは利用されたということでしょう。私はてつきり老人の方かと思いい『お気をつけてください』とお節介の気持ちでお訪ねした次第です。でも山野俊子さんは若い方ですからパソコンやメールの知識があたりでしょう。安心しました」

彼女は大学四年生で就職も決まっているとのことだった。念のため、アドレスは変更予定ではあるが、暫くは併存するので、何かあれば連絡くださいと言って失礼した。

山野さんの件はこれで一件落着だが、この後メールアドレスの変更作業があるかと思うと気が重い。登録済のアドレスは何件くらいあるだろうか。親戚、学生時代の友人、会社関係者、趣味の会、その他合わせて百人はいるだろう。各人に変更通知を出すのは大変な作業。何か便利な方法があるのではないか。

メールの設定を開くと自動応答の項目に、連絡登録先に限り応答するというのがあった。これに新アドレスへの変更通知を書いておけば、旧アドレスに送信してきた登録先の友人等には自動的に知らせられる。さて、落ち着いた所で少し考え込んだ。なぜ山野さんの氏名・住所が偽メールに使われたのか。架空にすべきものを実在のものにしたのはなぜか。事例集にはお届け先が芦屋市の竹中一郎だが、恐らく架空だろう。しかし、大木宛のものは実在する横浜市の山野俊子であった。

偽メールの発信者は山野俊子さんを知っている人物ではないか。山野さんへの嫌がらせかもしれない。あれだけの美人であり、相手にされなかった片思いの男は何人もいるだろう。

次はこの犯人探しに興味が湧いた。調べることは不可能だが、いろいろ想像すると面白そうだ。暇な毎日、この想像に時間をつぶすか。

毎日、パソコンでのメール発送とデータ収集にうんざりしており、気休めというか、気分転換に山野俊子の住所・氏名をアマゾンの偽メールに使ってみた。宛先の o o k i @ 〓 なる人物のアドレスはアダルトビデオ会社から横流しされたものだ。遊び半分であり、特に反応がなくてもどうってことない。恐らく o o k i は偽メールと冷静に判断したようで何の反応もなかった。

この偽メールは闇バイトの初期の頃、当面の稼ぎのためにやっていたフィッシング詐欺というやつだ。これは通販サイトや金融機関になりすましてメールを送るもので、ロゴや文章も正規のものと同じような内容にして、相手を信用させこちらのサイトに誘導する。そしてクレジットカード番号やパスワード等の入力を促し、入手後はそれを悪用するというものだ。餌を仕掛け、獲物がかかるのを待つ手法が釣りのようであることからフィッシング詐欺と呼ばれており、世界的に行われている偽メールの代表的なものである。

実在の山野俊子を使ったのは俺のラブレターの様なものだ。実際の住所・氏名を使うことで、山野俊子にメッセージを送った気持ちに満足していた。これによって山野に被害が及ぶことはないはずだ。

俺の名は結城悟。山野俊子とは東西大学経済学部で一年生の語学クラスのクラスメイトだった。アイウエオ順の座席指定方式だったので、山野、結城と続き、隣の席になり話す機会も多かった。経済学部の女子学生はごく少数で、その中で山野はひとときわ品性のある魅力的な女子学生だった。それだけに山野は男子学生の注目の的で誰もが近づいてきていた。コンパには他のクラスの学生までも参加していた。

俺も心秘かに山野に憧れていた。ところが残念で悔しい思いもしたが、後期授業が始まった十月に俺は退学せねばならなくなった。もともと豊かでない結城家であったが、頼りないながらも収入のあった父親が、何の前触れもなく蒸発してしまった。母の僅かなパートの稼ぎだけでは到底一家の生活は成り立たない。長男の俺、そして高校生の弟、中学生の妹がいるのだ。その窮状を救うには長男たる俺がノホホ

ンと大学に行っているわけにはいかない。稼がなくてはならない状況に追い込まれた。

母は泣いて退学しないようにと言ってくれたが、心のどこかに安心の気持ちもあったように感じた。

級友からは奨学金制度の活用を進めてくれたが、家族の生活費をカバーする必要がある、奨学金で賄うのは不可能であった。そんな中で山野俊子はきめ細かい生活費の捻出や効率的なアルバイト収入の算段まで考えてくれていた。ありがたかったものの、育ちの良い山野の考えは甘くて現実的には受け入れられないものだった。

授業料は当初からアルバイトで稼いで支払う覚悟であり、後期授業料の納入期限が迫る中、貯めていた授業料分は家族の生活費に向けるべきと考え、納入期限の十月二十日に退学届けを提出し、東西大学とはおさらばした。

とはいえ十九歳の大学中退者を雇う企業はなく、やむなくコンビニと夜間の警備会社のアルバイトで、何とか二十万円の収入を得ていた。これでは一家を支えるには足りず、将来の展望も図れない。高額収入が得られるものはないかと怪しげな闇サイトのアルバイトにも当たってみた。

7

◆ 知的な活動で高収入が得られます！

面接後に合宿による研修あり（費用は不要）

担当…高橋 健二 アドレス…〇〇〇〇

研修があるのは闇サイトの求人広告では珍しく、興味が湧いた。高収入を得るにはリスクの多い怪しげな仕事もやむを得ないとの覚悟は出来ており、早速高橋氏のアドレスに

広告を見た。応募する。結城 悟 と書いて送信した。

即刻メールの返信が来て、電話番号を求められ、以降は電話でのやり取りのみとすると、書かれていた。さらに①送信した貴君のアドレスは削除しておくこと ②この広告も即刻削除する。

との記載があった。電話番号を書き込み送信するや否やスマホに呼び出し音が鳴った。

「結城さんですね。担当の高橋です。面接は明日十時 新宿京王プラザ ホテル一階ロビーに来てください。本人確認のため、即、自撮りの顔写真を送信ください」と一方的に告げられる。慌てて自撮り写真を送信した。

一連の流れから、闇サイトらしく非常に用心深い。若干の不安もあるが、金を得るにはもう乗っかるしかない。翌日、約束の十分前に待ち合わせ場所のロビーでソファに腰かけ、周りを見渡していた。十一時十五分になっても高橋氏は現れない。どういふことだと腰を上げかけた瞬間、それを待っていたかのように三十歳代と思しき人物が前に現れた。

「結城さん、高橋です。暫く結城さんを観察していました。十分前に一人で来ましたね。誰かと連れ立って来ていたら、私は現れません。観察の結果、私どもの仕事に協力できる方と判断しました。これで面接終了です。車を待たせてありますので、行きましょう」

高橋氏は闇サイトとは縁のなさそうな知的な仕事をしている風貌であり、温厚そうで好感が持てる人物だと感じた。早々に車に乗れとの強引な誘導でありながらも自然に従わざるを得ない状況を作り出していた。もっと胡散臭い人物かと想像していたが、そうではないので、少しは安心した。乗車すると「ご家族に一週間ほど友達と旅行すると、連絡してください。余計なことは一切言わないでくださいね」

新宿から二時間くらい経っただろうか。外に目をやると日の出町とあった。高校時代にハイキングで『日の出山』を登り、『つるつる温泉』に立ち寄ったことを思い出した。東京都とはいうものの田舎そのものの素朴な雰囲気の街だ。着いたところは街から離れた山の中で、山小屋風の建物だった。近くには人の気配は感じられない。部屋にはパソコンが十台ほど並んでいて、大型の画面表示の器具もあり、スマホは乱雑にテーブル上に、二、三十台が並べられていた。

「まず、結城さんの住所・氏名・携帯電話番号・メールアドレス、そして固定電話番号・家族の名前・各々の携帯電話番号を記入してください」

出された書類に記載していたところ、
「これは結城さんが指示通りに仕事をしなかった場合や裏切り行為が

あった場合に、ご家族に我々の仲間が何らかの制裁処置を取ることをご承知おき願います」

なるほど、闇サイトのアルバイトらしい対応であると納得した。そして所有しているスマホを取り上げられ、新たなスマホが渡された。「今後は渡したスマホが全てであり、これには位置情報が組み込まれています。結城さんが何処にいるかを常に監視していることになりま

すので、ご承知おきください」
高橋氏は丁寧な語り口ではあるが、その話す内容は厳しいものであり、犯罪に加担する実感がしてきた。

「すまないがやりかけの仕事があるので、研修の最初として、これを読んでおいてくれ」
と、事例集と書かれたものが渡された。

事例① JAL 三億八千万円 騙し取られる

(二〇一七年十二月)

旅客機のリース料の請求書が届いた直後に、「訂正版」として、「振込先の口座が変更になった」と記載された請求書メールが届いた。

↓担当者は先のメールと同じ書式であったことから疑いもなく三億八千万円を振り込んだ。

【ポイント】・正規の請求書メールの内容・書式・送信日を盗み取っていた。

・マルチウエアの感染、アカウントの乗っ取りが出来ていた。

事例② トヨタ紡織ヨーロッパ 四十億円の詐欺被害

(二〇一九年九月)

トヨタ紡織ヨーロッパの財務会計部門に正規の取引先を装ったメールを送られ、至急取引を行わないとトヨタ自動車の製造に遅れが出る恐れがあると記載があり、請求通り四十億円を送金した。

【ポイント】・取引情報を何らかの方法で入手しており、かなり長期かつ綿密な計画がなされていた。

事例③ 社長なりすまし (随時行われている)

せて企業の秘密等を調べることにも興味を持った。

引き続き高橋氏は説明してくれた。情報を盗み取る方法がいくつかあると挙げてくれた。

①マルウェアの利用（マルウェアとは悪意のあるソフトウェア）
業務用パソコンやスマートフォンにマルウェアを感染させ、個人情報
報を盗み取る

②不正アクセス

企業のメールサーバーに不正アクセスし、メールアカウントの乗っ取りや直近の送受信内容を盗み見る。

③ソーシャルエンジニアリング

担当者を装って電話し、メールやシステムのログイン情報を聞き出す。時には社内の協力者によりログイン情報を不正に取得する。

「いろいろな方法があることは判りましたが、私はコンピュータに関する知識はありませんが……」

「心配御無用。仲間には専門知識と技術を持っている者がいるので、彼らの動きでコンピュータへのアクセスやメールの探査を行う。いわば君はサポート役で、指示した通りの仕事をしてもらえばそれで結構」

「ビジネスメール詐欺は相当な準備と作戦を要する。長期戦だ。しかし稼ぎは毎日でも欲しい。そこで繋ぎとして、当面の仕事は個人を相手にした偽メールで稼ぐ必要がある。具体的には通販のアマゾンやYahoo、銀行、カード会社等になりすまして個人情報を入力する」

「言葉で言えば簡単だが、警察等からの注意喚起がなされており、メールへの警戒心が強くなっている。我々が求めている情報入手のリンクへの誘導に乗ってこなく、情報入手の確率は極めて低い。とにかく送り先のメールを数多く打つしか手はない。君にはそのメール送信を手伝ってもらいたい」

「入手したデータから金を得るにはどうするのですか？」

「我々の仕事はデータを入手するまで。このデータを専門の悪徳業者に売り渡して金を得るのだ。買った業者はデータの主を装って買い物をし、それを転売して収入を得ているようだ。それについて我々は一切関知していないから安全という訳だ」

「ここに十人分の氏名・アドレス・パスワード等のデータがある。そ

れを売る法をこれからやってみるから、よく見ておけ」

高橋氏はパソコンで誰かにアプローチしだした。

——お疲れ様。十人分のデータがある。名前やアドレスの一覧表は次の通り。パスワードは今の所は不記載。明日午前中にいつもの口座に振り込んでもらいたい。入金確認ができ次第、パスワードを知らせる。今回のデータは富裕層で騙し易い高齢の女性ばかりだ。入手には随分苦労したので、いつもより高く買ってもらいたい。三十万円と行きたいところだが、毎度お馴染みだけに、二十万円とする。いいな、明日午前中に振り込んでくれ——

「こういう要領だ。永年の関係で信頼しあっているからメール一本で連絡出来る訳だ。この後が君の出番となる。明日十二時過ぎに銀行の自動支払機に通帳を入れて二十万円の入金確認を行い、俺に連絡してくれ」

「そうそう、終えたら日の出町のイオンモールで待ち合わせしよう。初仕事のお祝いとして、当面的下着類等をプレゼントしよう。併せて食料を買い貯めもしておきたい。いいな」

「なお、位置情報で君の行動は全て把握されていることを忘れるなよ」

はじめにこんな説明を受け、その後は毎日毎日、偽メールを送信し続ける。手元には膨大なメールアドレス一覧表があり、それを順に宛先に転記し、本文はコピーした文章を張り付け送信する。それにしてもこれらの個人メールアドレスは何処から手に入れたのだろうか。

高橋氏が語ったところによれば、これも分業で別に名簿業者があり、いろんな方法で氏名・住所・メールアドレス等入手して販売しているとのこと。各種会員名簿や同窓会名簿。それにアクセスされたメールの送受信記録の横流しもある。メールアドレスのみのはアダルト関係のビデオにアクセスされたものが多いようだ。

書面のレイアウト、ロゴは本物そっくりで、その内容も巧みにできしており、受信者は疑いもないまま、慌てて誘導リンクをクリックし、偽メールに引っかかるようになっていく。

【Sネット銀行になりすました偽メール】

S ネット銀行からのお知らせ

当行では、全てのお客様さまに向けてお客様さまの情報、お取引等の定期的な確認を順次お願いしております。

◆下記のご本人確認ボタンをクリック頂くと「お客様さま情報、お取引の確認」の画面が表示されます。

◆画面の案内に沿ってお客様さまの情報の確認とお取引内容をご回答ください。

特段の変更がない場合は一分程度で完了します。

※回答が完了しますと、通常通りのお取引が可能になります

※一定期間にご確認がいただけない場合は、口座取引を一部制限させていただきます。

お客様にはお手数をおかけいたしますが、何卒ご理解、ご協力をお願いいたします。

【Mカード会社になりました偽メール】

いつもMカードをご利用いただきありがとうございます。

◆お客様のWEBサイトのご利用につきまして、パスワード等の入力相違が続いて発生しましたので、セキュリティの関係で本日より当社サイトのご利用を一時制限させていただきます。

◆お客さまにはお手数をお掛けしますが、本人確認のために、以下をクリックして本人確認をしていただければ、制限を解除いたしますので、何卒ご理解とご協力をお願いします。

【メール会社になりすましの偽メール】

受信サーバの容量超過のお知らせ

◆メールボックスのストレージ容量がほぼいっぱいです。二通の受信メールが配信できませんでした。

◆メールを受信するには、メールボックスのストレージ容量を増やす必要があります。

◆つきましては以下のリンクをクリックして、お客様さまの情報の確認等を行ってください。完了次第、容量が増え、通常通り配信いたします。

お手数をお掛けしますが、よろしく願います。

こうした文面は高橋氏が作っているようだが、どうもそうではないらしい。

「パソコンで偽メールと検索すると、いろんなものが出て来る。中には警察からのものやフィッシング対策協議会やセキュリティ会社等々が犯罪防止目的で事例として偽メールの内容を挙げています。俺んところは後発で取り組んだから、それらを参考にして、より騙されやすい文案を練っている。まあ、最初に作った奴はご苦労様という感じだな」

お知らせメールで不安を煽って、慌ててこちらに繋がるリンクをクリックさせるように誘導している訳だ。そのためにはメール差出人のアドレスが重要で、相手に信用されないといけない。そこで使うのは正式のメールアドレスを一文だけ変えて、メール差出人の偽装している。

これが出来るのはメールの仕組み上、プロトコル（通信手順）のルールの隙間をついているからだ。メールを送信する場合、送信先のアドレスを書き違えると、チェックされてエラーメッセージが出るが、差出人（送信元）のメールアドレスはチェックされない。従って正式のアドレスの一文を変更しても送信でき、受信者は一文だけ変えられていることに気付かないで信じ込んでしまうという訳だ。

とにかく入手しているメールアドレス帳を基に偽メールを指がおかしくなるくらい送信し続けた。その後は誘導できたリンクからの情報を一覧表にする。それを高橋氏が業者に売り渡していく。その売り渡した代金の入金確認をして、後日現金化するという訳だ。

当初は一週間と家族に連絡したが、この仕事は長期になりそうなので、家族には

「福岡に滞在して仕事をしているので心配ないよ。毎月三十万は送金するので、生活費に役立てて欲しい」と連絡した。

高橋氏から『社長なりすまし』のビジネス偽メールを十通送信したという。「社長のアドレス、経理担当者のアドレスもバッチリなので、少なくとも六社からは入金されるだろう」と自信を持っている様子だった。

その偽メールの内容は、社長が経理担当者に機密扱いで至急三十万円を女性名義の口座に振り込むよう依頼する形になっていた。経理担当者は周りに相談する訳にもいかず、社長と女性間のトラブル解決金で、急を要すると思わせる工夫がなされていた。

異なる銀行の通帳とキャッシュカードを十枚渡され、暗証番号が告げられ、それぞれ三十万円を引き出すように命ぜられた。但し同じ地域の銀行支店に行くのは禁じられ、京浜東北線と東武東上線沿いの駅近くの各行の支店を回り、現金を引き出すようにとの指示があった。そしていつもの通り

「位置情報で君の行動は全て把握されていることを忘れるなよ」と付け加えられた。

十支店回って、三十万円が引き出せたのは四行だけだった。残りの六行は入金がなかった。その六人の会社の経理担当者は偽メールを見抜いたのか、機密扱いでありながらも社長に念のため確認を取ったのだろう。

百二十万円を手にしながら、同じ騙すのなら三十万円ではなく五十万円にすればいいのにと思ったので、戻って高橋氏に金を手渡すときに話したところ、

「お前は最近の銀行の動きを知らないな」と笑われた。

「銀行は犯罪防止の観点から、カードで一時に引き出せる金額を一日に三十万円に制限している」

こうして数年が過ぎ、個人宛の偽メールから社長なりすましのビジネス偽メールに徐々に比重が移っていった。お陰で、自宅からの通いで仕事をこなし、さらにはコンピュータアクセスの悪の手法を学べる時間ができ、仲間の専門家からノウハウを教えてもらっていた。

「高橋よ、派手に社長なりすましのビジネス偽メールを送っているようだな。高橋だけではなく新手の奴が増え、被害が増加しており、マスコミでも取り上げられている。サツも取締りの本気度が強まっているとの情報を得た。そろそろ手じまいをした方が良さそうだな」

そんな同業仲間からの忠告を受けて、データの収録されているDVDやUSBメモリ、それに用済みのキャッシュカードをドリルやペンチで、粉々に破壊した。また書類や数十帳はあろう銀行通帳を焼却し、

全ての残骸を多摩湖に撒いたり、多摩の山林深くの地に埋めたりするのを手伝った。

警察の動きについては、ビジネス偽メール犯罪の特別捜査チームが立ち上がり、銀行の協力と偽メールを受け取った社長も協力し、指定された銀行口座の動きを探り、支店への張り込みも強化されていた。そんな中に俺の動きも探られていたらしい。

証拠関係を処分した二日後に、偽メール犯追跡を担当していた警視庁、神奈川県・埼玉・千葉・山梨の県警による一斉検挙が行われた。

逮捕前に高橋氏は

「検挙されても証拠はない。細かなことについては知らないと言え。大丈夫だ。お前はアルバイトの使い走りだけだ。直ぐ釈放される」

「俺が言うのも変だが、お前は若い。これからは正業に就いた方がいいぞ」

と言った。

*

*

*

偽メール犯逮捕！とマスコミ、テレビのワイドショーで派手に採り上げられた。

社会人として活躍している山野俊子に大学時代のクラスメイトから電話があった。

「テレビで偽メール事件の犯人逮捕と出ていたでしょう。あの中に結城君、そう一年の時に大学を辞めた子よ。覚えてるでしょ。いい感じの子だったのにどうして悪の道に入ったのかしらね」

「確かにそんな子が居たわね。でもあれから五、六年も経っているわね。詳しくは覚えていないわ」

山野は結城のことはすっかり覚えていたが、噂話には乗っかりたくない思いだった。ましてや自分を宛先にした偽メールがあったことにも触れたくなかった。

大木敏夫はメール犯人逮捕のワイドショーを熱心に観ていた。チャンネルを変えて各局の報道を見比べ、その違いを楽しんでいた。暇な毎日を過ごすには絶好の事件だ。

逮捕された連中の中に自分宛に出した偽メールの主がいるとは思えなかったが、あの偽メールで訪ねた山野俊子のことを思い出した。アマゾンの偽メール以来、不審メールは一切開けずに即刻削除を実行していた。だが、今でも偽メールに引っかかる人がいるのか。

この逮捕をキツカケに偽メールが減って欲しいと思いつつながら、昼寝に入った。

完